

## リハビリテーション学科 作業療法学専攻 シラバスの変更一覧

学年	ページ	科目名
1年	15	大学生活論
1年	21	健康スポーツ科学
3年	107	臨床作業療法演習Ⅲ
3年	111	保健医療福祉連携論
-	121	リハビリテーション学科 学科教員一覧

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CO-0-HSO-01			
	●		●	●					
科目名	大学生生活論				単位認定者	須藤 あゆみ		授業内課題	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	OT	必修	1年	開講時期	通年	単位数	1 単位		
					授業形態	講義	授業時間数	30 時間	
							授業回数	15 回	
授業の概要	大学生生活を有意義に送るために必要となる姿勢、知識やスキルを身につける。具体的には、本学・各学科の教育方針の理解、大学での学び方（レポートの書き方、図書館の活用法等）、大学生生活の基礎知識（ネット社会の危険、消費者トラブル、交通ルールとマナー等）、健康に関わる知識（睡眠・食生活、ドラッグの危険性、大学生が出会うところの問題等）を身につける。								
到達目標	1. 大学生・社会人としての基本的マナーを身につける。 2. 大学生生活を有意義に送るための知識やスキルを身につける。 3. 大学での学びを基盤に、学修の自己管理ができる。								
学修者への期待等	大学生生活を有意義に送るために設定した科目である。自己の目標を叶えるために、積極的に学ぶことを期待する。さらに多くの仲間をつくり、いろいろな考えに触れてほしい。								
回	授業計画				準備学修			担当	
1	学内ガイダンス（本学の教育方針）				科目専用ノートを準備をすること			大和田 宏美	
2	大学生生活での学び1（カリキュラム）				授業内容をノートにまとめること（復習30分程度）			齋藤 佑樹	
3	大学生生活での学び2（交流会1 学生自己紹介）				授業内容をノートにまとめること（復習30分程度）			須藤 あゆみ	
4	大学生生活での学び3（交流会2 学生間交流）				授業内容をノートにまとめること（復習30分程度）			須藤 あゆみ	
5	大学生生活での学び4（図書館利用 文献検索の仕方）				授業内容をノートにまとめること（復習30分程度）			阿部 奈津紀	
6	大学生生活での学び5（授業の受け方 ノートのとり方）				授業内容をノートにまとめること（復習30分程度）			熊谷 竜太	
7	大学生生活での学び6（自己学修 予習復習）				授業内容をノートにまとめること（復習30分程度）			熊谷 竜太	
8	大学生生活に関わる基礎知識1（学校生活のルール）				授業内容をノートにまとめること（復習30分程度）			学生総合支援センター 須藤 あゆみ 大橋 孝子	
9	大学生生活に関わる基礎知識2（新生活での注意点 生活トラブル 交通ルール）				授業内容をノートにまとめること（復習30分程度）			学生総合支援センター 須藤 あゆみ 大橋 孝子	
10	大学生生活に関わる基礎知識3（ネットの危険 情報モラル、ハラスメント）				授業内容をノートにまとめること（復習30分程度）			齋藤 佑樹 熊谷 竜太 森永 雄 小関 友記 大橋 孝子	
11	大学生生活に関わる基礎知識4（消費者トラブルについて）				授業内容をノートにまとめること（復習30分程度）			学生総合支援センター 須藤 あゆみ 大橋 孝子	
12	健康に関する知識1（睡眠 食生活 ドラッグの危険性）				授業内容をノートにまとめること（復習30分程度）			学生総合支援センター 須藤 あゆみ 大橋 孝子	
13	健康に関する知識2（大学生が出会う心の問題）				授業内容をノートにまとめること（復習30分程度）			神山 直子	
14	健康に関する知識3（感染症対策）				授業内容をノートにまとめること（復習30分程度）			千葉 由里	
15	先輩から学ぶ大学生生活				授業内容をノートにまとめること（復習30分程度）			須藤 あゆみ	
教科書	特になし								
参考文献	特になし								
備考	1、2、5、8～13回はPT・OT合同授業です。大学生生活論専用のノートを持参し、授業ノートを作成してください。最終授業終了後提出してもらい、採点し返却します。								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RO-0-HSC-03			
	●		●	●					
科目名	健康スポーツ科学				単位認定者	小関 友記		試験(筆記)	40 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	前期	単位数	2 単位	授業内課題 (レポート)	40 %
	O T	必修	1年		授業形態	講義	授業時間数	30 時間	受講態度
							授業回数	15 回	
授業の概要	健康であることは生活の質を上げるために不可欠な要素である。その健康を維持するために食生活とスポーツの重要性を説き、それを科学的に検証する。運動を通して健康増進や体力増進等を行う知識と方法に関して、具体的なデータ等を使いながら学んでいく。また、生活習慣病と運動及び食生活の関係、疾病の状態や健康の状態、加齢による体力の衰えなどによる運動の選択などに関しても具体的に学んでいく。								
到達目標	健康と運動・スポーツについて理解し、生涯にわたっての運動・スポーツを取り入れた生活が、健康の維持・増進にとっていかに重要であるかを理解し、自発的、積極的な運動・スポーツ実践や運動・スポーツ指導につなげることができるようになる。障がい者の特性を理解し、可能なスポーツ活動を提案できるようになる。								
学修者への期待等	今後学修する基礎医学や理学療法・作業療法の基礎となる科目です。予習・復習を期待します。								
回	授業計画				準備学修			担当	
1	健康の定義、成り立ち、モデルについて -講義内容のグループワーク、レポート作成-				教科書の項目(健康であるとはどういうことか?)を事前に読む。(概ね30分程度)			小関 友記	
2	生活習慣と健康について -講義内容のグループワーク、レポート作成-				教科書の項目(生活習慣と健康)を事前に読む。(概ね30分程度)			熊谷 竜太 小関 友記	
3	心の健康とは? 心の病について -講義内容のグループワーク、レポート作成-				教科書の項目(心の健康とは?)を事前に読む。(概ね30分程度)			熊谷 竜太 小関 友記	
4	ストレスと健康の関連性 -講義内容のグループワーク、レポート作成-				教科書の項目(ストレスと健康)を事前に読む。(概ね30分程度)			小関 友記	
5	体力の概念、構成要素 -講義内容のグループワーク、レポート作成-				教科書の項目(体力とは何か?、大学生の体力、体力の測定と評価方法、身体を知る、発育・発達)を事前に読む。(概ね30分程度)			小関 友記 熊谷 竜太	
6	なぜ運動が必要か?、運動の実際・効果 -講義内容のグループワーク、レポート作成-				教科書の項目(運動の意味を考える、運動の実際)を事前に読む。(概ね30分程度)			熊谷 竜太 小関 友記	
7	スポーツの概念、構成要素 -講義内容のグループワーク、レポート作成-				教科書の項目(スポーツの役割、スポーツの変遷、スポーツとマナー、スポーツとパーソナリティ)を事前に読む。(概ね30分程度)			小関 友記 熊谷 竜太	
8	障がい者の特性を知る -グループワーク-				グループに分かれ、与えられる障がい者の症例を理解・調査し、次回からの障がい者スポーツ企画につなげる。(グループディスカッション)			小関 友記 熊谷 竜太	
9	障がい者スポーツの企画立案 -グループワーク-				HOKUTO SPORTS SQUARE(体育館)にて、企画した障がい者スポーツを実践しつつ現実的なものに修正していく。(グループディスカッション)			小関 友記 熊谷 竜太	
10	企画立案した障がい者スポーツの修正 -グループワーク-							小関 友記 熊谷 竜太	
11	企画立案した障がい者スポーツのまとめ -グループワーク、プレゼンテーションの準備-				企画した障害者スポーツのプレゼンテーションの準備を行う			小関 友記 熊谷 竜太	
12	障がい者スポーツの実行準備 -グループワーク-				HOKUTO SPORTS SQUARE(体育館)にて、企画した障がい者スポーツを他の学生にその必要性や機能への影響を説明するプレゼンテーションを実施する。また実行しながらリスクやその管理を確認する。			小関 友記 熊谷 竜太	
13	障がい者スポーツの提案・説明 -グループワーク、プレゼンテーション-							小関 友記 熊谷 竜太	
14	障がい者スポーツの実行と管理 -グループワーク、スライド作成-				実施した障がい者スポーツの発表用スライドを作成する。			小関 友記 熊谷 竜太	
15	企画・実行した障害者スポーツの発表 -スライド発表-				企画実行した障がい者スポーツについて、スライドや動画にまとめ、7分程度で発表する。			小関 友記 熊谷 竜太	
教科書	「大学生の健康スポーツ科学」大学生の健康スポーツ科学研究会著、道和書院								
参考文献	特になし								
備考	P T・O T合同授業 必要に応じて、LMS上に参考資料をアップロードします。また、レポート提出もLMS上で実施しますので、講義時には必ずPCを持参して下さい。授業内課題のフィードバック：次週に実施。								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●	●	●	

科目ナンバリング
RO-2-TOT-17

科目名	臨床作業療法演習Ⅲ				単位 認定者	須藤 あゆみ		評価の 方法	授業内課題	100 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	OT	必修	3年	開講時期	通年	単位数	1 単位				
						授業時間数	30 時間				
				授業形態	演習	授業回数	15 回				
授業の概要	臨床実習で経験した事例を取り上げ、問題の分析から治療介入について、各科目で学んだ知識・技術を統合し考える。作業療法の治療理論に基づいた介入を学び、適切な介入の方法を修得することで作業療法を総合的にする。										
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各領域の主要疾患の評価に必要な知識を用い、評価計画を立案することができるようになる。</li> <li>2. 各領域の主要疾患において、根拠のある効果的な治療プログラムを立案することができるようになる。</li> <li>3. 領域、疾患、病期に適切なリスク管理や注意事項を挙げることができるようになる。</li> <li>4. 適切な技術で評価を実施することができるようになる。</li> </ol>										
学修者への期待等	演習であるため、積極的に参加してほしい。										
回	授業計画				準備学修			担当			
1	授業ガイダンスと作業療法プロセスの復習、評価と治療の考え方				領域の対象疾患とそれぞれの病期について復習しておくこと。(30分程度)			山口 志津枝			
2	身体障害①：障害像（問題の捉え方）				各疾患の回復過程を復習しておくこと。(1時間程度)			山口 志津枝			
3	身体障害②：障害像（生活機能障害）				各ADLの工程を列挙しておくこと。(1時間程度)			山口 志津枝			
4	精神障害①：症状と障害				各疾患の回復過程を復習しておくこと。(30分程度)			須藤 あゆみ			
5	精神障害②：評価・治療の考え方				各疾患の回復過程を復習しておくこと。(30分程度)			須藤 あゆみ			
6	クリニカルリーズニングの概念と流れ				作業療法学概論 P148-150「作業療法における思考過程と態度」を読む。(30分程度)			齋藤 佑樹			
7	身体障害・高齢期障害①：評価治療の考え方				前回の復習を十分行い授業に臨むこと。(30分程度)			齋藤 佑樹			
8	身体障害・高齢期障害②：評価計画立案				前回の復習を十分行い授業に臨むこと。(30分程度)			齋藤 佑樹			
9	身体障害・高齢期障害③：治療計画立案				前回の復習を十分行い授業に臨むこと。(30分程度)			齋藤 佑樹			
10	精神障害③：症例の評価計画立案				第4・5回の内容の復習をしておくこと。(30分程度)			須藤 あゆみ			
11	精神障害④：症例の治療計画立案				前回の復習を行い授業に臨むこと。(30分程度)			須藤 あゆみ			
12	身体障害③：急性期の治療の実際				身体障害急性期の病態を復習しておくこと。(30分程度)			山口 志津枝 道又 顕			
13	身体障害④：回復期の治療の実際				身体障害回復期の病態を復習しておくこと。(30分程度)			高橋 慧 荒井 隆徳			
14	身体障害⑤：高齢期の治療の実際・まとめ				身体障害高齢期の病態を復習しておくこと。(30分程度)			高橋 慧			
15	精神障害⑤：治療の実際				実際の治療場面をイメージできるように疾患の病態や評価、治療について復習しておくこと。(30分程度)			須藤 あゆみ 安達 健朗			
教科書	1・2年次で購入した教科書を使用します。事前に連絡します。										
参考文献	特になし										
備考	課題のフィードバックは授業内に適宜行います。 第13回は遠隔(ZOOM)で実施する。										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RO-2-CBO-03			
		●	●	●	●				
科目名	保健医療福祉連携論				単位認定者	須藤 あゆみ		授業内課題 (レポート)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	3年	開講時期	後期	単位数	1 単位		
	O T	必修	3年			授業時間数	30 時間		
				授業形態	演習	授業回数	15 回		
授業の概要	包括的なリハビリテーションを行うためには、多くの医療専門職との連携が不可欠である。さらに、医療専門職だけでなく、保健・医療・福祉領域の関連職種との連携が重要である。本講義では、多くの関連専門職とその役割を知り、専門職間の連携の重要性について理解する。								
到達目標	1. 他の関連専門職の専門性を理解できるようになる。 2. 他の専門職と協働し、同じ目標を共有することで自らが目指している職種の専門性を再確認する。								
学修者への期待等	本講義はグループ学修中心の講義である。グループ学修においては積極的な意見交換を期待しています。また、療法士免許取得後も、実際の現場にて、率先して多職種連携を行えるようになることを期待しています。								
回	授業計画				準備学修			担当	
1	多職種連携とは				配付資料の復習をすること (概ね30分)			佐直信彦	
2	他職種の専門性を知る [1] 看護師				授業の内容をまとめる。(概ね30分)			他学科教員 大橋 孝子 須藤あゆみ 戸田祐子 森永雄 荻原久佳 荒牧隼浩	
3	他職種の専門性を知る [2] 言語聴覚士				授業の内容をまとめる。(概ね30分)				
4	他職種の専門性を知る [3] 栄養士				授業の内容をまとめる。(概ね30分)				
5	他職種の専門性を知る [4] 歯科衛生士				授業の内容をまとめる。(概ね30分)				
6	連携する際の工夫を考える [1] グループワーク				発表資料の作成準備をする。 (毎回概ね30分)				
7	連携する際の工夫を考える [2] 発表								
8	連携の実際を学ぶ [1] ゲストスピーカー				授業内容をまとめる (概ね30分程度)			ゲストスピー カー 大橋孝子	
9	連携の実際を学ぶ [2] ゲストスピーカー				授業内容をまとめる (概ね30分程度)				
10	連携の実際を学ぶ [3] ゲストスピーカー				授業内容をまとめる (概ね30分程度)				
11	事例検討 [1] 事例提示				発表資料の作成準備をする。 (毎回概ね30分)			大橋孝子 須藤あゆみ 戸田祐子 森永雄 荻原久佳 荒牧隼浩	
12	事例検討 [2] グループワーク								
13	事例検討 [3] 発表準備 グループワーク								
14	事例検討 [4] 発表1								
15	事例検討 [5] 発表2								
教科書	配付資料								
参考文献	「信念対立解明アプローチ入門—チーム医療・多職種連携の可能性をひらく」京極真、中央法規								
備考	P T・O T 合同授業 課題のフィードバックは授業内に適宜行います。								

※以下は該当者のみ記載する。

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

須藤：保健・医療・福祉領域の関連職種との連携において、十分な実務経験を有す

## リハビリテーション学科 学科教員一覧

	職位	氏名	電話番号	E-mail
1	特任教授	さじき のぶひこ 佐直 信彦	022-308-2071 (代表)	n_sajiki@seiyogakuin.ac.jp
2	教授 学科長兼 PT専攻長	おおわだ ひろみ 大和田 宏美		h_oowada@seiyogakuin.ac.jp
3	教授 副学科長兼 OT専攻長	さいとう ゆうき 齋藤 佑樹		yu_saitou@seiyogakuin.ac.jp
4	教授	おぎはら ひさよし 荻原 久佳		h_ogihara@seiyogakuin.ac.jp
5	准教授	やまぐち しずえ 山口 志津枝		s_yamaguchi@seiyogakuin.ac.jp
6	准教授	おおはし たかこ 大橋 孝子		t_oohashi@seiyogakuin.ac.jp
7	講師	すとう あゆみ 須藤 あゆみ		a_sutou@seiyogakuin.ac.jp
8	講師	さかがみ ひさお 坂上 尚穂		h_sakagami@seiyogakuin.ac.jp
9	講師	こせき とものり 小関 友記		tm_koseki@seiyogakuin.ac.jp
10	講師	みやもと ひろき 宮本 浩樹		h_miyamoto@seiyogakuin.ac.jp
11	講師	とだ ゆうこ 戸田 祐子		y_toda@seiyogakuin.ac.jp
12	講師	いとう だいすけ 伊藤 大亮		d_itou@seiyogakuin.ac.jp
13	助教	もりなが ゆう 森永 雄		y_morinaga@seiyogakuin.ac.jp
14	助教	くまがい りゅうた 熊谷 竜太		r_kumagai@seiyogakuin.ac.jp
15	助教	すずき ゆうじ 鈴木 裕治		y_suzuki@seiyogakuin.ac.jp
16	助教	ささき ひろと 佐々木 広人		ht_sasaki@seiyogakuin.ac.jp
17	助教	たかはし さとし 高橋 慧		s_takahashi@seiyogakuin.ac.jp
18	助教	あらまき よしひろ 荒牧 隼浩		y_aramaki@seiyogakuin.ac.jp
19	助教	こまつ よしのり 小松 佳路		ys_komatsu@seiyogakuin.ac.jp